

平成 28 年度 第 1 回 学校協議会

平成 28 年 6 月 20 日（水）、本校校長室において、第 1 回の学校協議会を開催しました。公務の関係で中谷健二委員が欠席、森田雅彦委員が代理出席となりました。学校側からは、校長、教頭、事務長、各分掌長が出席しました。

今回は、今年度最初の協議会であることから、まずは授業を見学していただき、そのことに関してご意見をいただくことから始め、再編整備も含めた本校の課題について、多様な示唆をいただける機会となるためのものとしました。

内容

1 授業見学 13：25～15：15

委員の皆さんに 5 限（農場での農業科目や本校での産業社会と人間）、6 限（本校での多様な科目）の授業を見学していただきました。

2 協議会 15：30～17：00

① 学校長挨拶

② 委員紹介・事務局員自己紹介

③ 運営マニュアル、実施要項、意見書についての説明

④ 会長、会長代理委員の選出

⑤ 協議事項

- ・ 授業見学について
- ・ 平成 27 年度・28 年度学校経営計画及び学校評価について
- ・ 各分掌等における今年度の重点取組について
- ・ その他 S G H、本校の将来像や課題など

⑥ 連絡 第 2 回の開催を 11 月中旬

3. 委員からの意見等

【授業見学について】

- 草花の授業を見学したが、大勢で実施するよりも身につけやすいと感じた。また、生徒が質問し易い雰囲気があり、教師の側としても生徒の様子があかえるのも少人数制の強みだと感じた。
- 農場に行って、設備の充実ぶりには素晴らしいと感じ、簿記、情報の授業等で卒業後に使える力をダイレクトに育成出来ることも魅力的だと感じた。そうした点のアピールが足りない。
- 「能動的な活動」を授業の中で取り入れ、生徒同士で双方向の「学び」が生まれるような授業にすればいいのではないか。
- どれだけ生徒が予習してきて能動的に学んでいるのかが見えてこない。「意識的に学ぶ」態度を育てていくのが肝要か。

【学校経営計画及び学校評価について】

○タブレット端末の、生徒への準備具合や活用頻度を増やせるといい。

【各分掌における今年度の取組み計画について】

○特になし

【本校の課題について】

○能勢高校は残るが、先生方全員から今後のビジョンを出して欲しい。今までの固定観念に拘らず、今後の取り組み、他と違う形で特化するアイデアを出してもらうことをお願いしたい。また、生徒の意見やアイデアを吸い上げ実践していく努力をお願いしたい。

○「学校の再編整備」について教育庁が今まで地元の話を聞くことは無かったが、能勢では教育庁が話を聞こうとしている。それは先生方の頑張りの結果であるが、残念ながら中学や地元には伝わっていない。

○これからの時代に対応していくための「話す力」などは土曜授業で培っていただいた。個人的には3クラスから2クラスへの移行は疑問符がつく。より少人数でクラス経営を行い、将来進む道が似通う生徒同士を同じクラスにして、高めあえるようにする方が、効率もよく面倒見が良くなると思うが。

○能勢高校の「これから」と「これまで」を思う気持ちに変わりはない。先生方には様々な機会ボランティア精神を見せていただきたい。

【その他全般】

○各委員や各先生からは前向きな意見がうかがえた。

○再編に伴って小中高の連携をどう進めるか、SGHの取り組みを、町としても情報発信をしていく。

○PTAの交流会で、遠方の方へのPRとして能勢の良さをアピールしていく。

○能勢小学校のアフタースクールで、ラグビーやサッカーをしている子どもたちがいる。クラブに関して、中学校等と合同練習が出来ないか。この1, 2年が勝負。業務だけではなく、様々な形でボランティアでも取り組んでもらえるとそれが能勢の子のためになる。先生たちから後方支援してもらい、能勢の子どもたちが行きたい学校にしたい。

○農場で見た葡萄と能勢高がかぶり、不要なものは落とされる運命なのかと感じた。再編はまずトイレを綺麗にすることから始めてはどうか。また、少人数なら大学のゼミのように、生徒10対担任1のクラス運営にしてはどうか。数人ずつを面倒見るチューター制度も良いと思う。中学校としても、中高連携を増やしていきたい。中学からも様々な提案をしていく。中学校の先生も変わろうとしているので、高校でも何か思い切ったことができれば良いと思う。進保協では、能勢高校の評価が良くない。いらぬという人の固定観念崩すのは困難だが、その固定観念を崩していきたい。

○今が一番大事な時期である。そこで、どんな高校を残すか、どんな高校にするか。それを町に提案する。皆さんから提案して欲しいと思う。